

東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究

日本と中国の造船技術を比較 中国共同調査

研究代表者 昆 政明

この研究は、東アジアの伝統的木造船の建造および操船技術の比較研究を行うもので、調査地域は日本と中国を中心とし、3ヵ年計画の最終年次にあたる。昨年度は浙江省舟山市と福建省泉州市、福州市を調査対象地としたが、今年度は泉州市および福州市を中心に調査を実施し、合わせて沖縄県、台湾の調査も実施した。ここでは、中国調査の概要を報告する。中国調査は2016年8月26日から9月2日にわたって実施した。

泉州市の調査に関しては泉州海外交通史博物館の協力を得て実施しており、同館での調査は前回実測図を作成した舳舩（サンパン）の船体細部の確認作業、および帆装部分の実測と、櫂を中心とする推進具の実測を行った。



写真1 実測図をもとに部分名称、建造方法を説明する張国輝氏（左2人目）

8月28日と29日は、張国輝氏工房において張氏が使用した船大工道具の実測を行い、使用法、名称確認を行った。また、前回作成した実測図をもとに、張氏から各部名称、建造方法等の詳細な聞き取りを行い、造船方法の概要の把握に努めた。

8月30日は福州市に移動し、これまでの調査結果の整理と福州市内にある船舶関連の博物館等の情報収集に当たった。その結果、三坊七巷福船文化館に多くの木造船資料、推進具、写真資料が展示されていることを確認した。

8月31日は福青沃造船所を調査した。前回調査時は、養殖作業の時期から外れていたため、多くの木造漁船の修理が行われていたが、今回はごく少数の修理が行われていただけであった。反面、道具類の実測や聞き取り調査に十分時間を割いていただくことができたのは幸運であった。ここでは船大工道具の実測作業および名称・使用法の調査を行い、同造船所社長の陳楊坤氏より前回作成した舢舨（サンパン）の実測図をもとに、各部名称、建造方法等の詳細な聞き取り調査を行った。調査が一段落した後、陳楊坤氏の案内で近隣の造船所を訪問し、建造中の舢舨（サンパン）の写真撮影を行うとともに、建造方法等について陳楊坤氏から実船をもとに説明を受けることができた。これにより造船過程の一部を写真で記録することができた。

今回の調査では、日本と中国の木造船建造における、船材の接合と漏水防止に関する技術の相違が明確となり、それが船大工道具の種類にあらわれていることを確認できた。また、実測図の作成が部分名称、工程の調査に有効であることを改めて認識させられた。

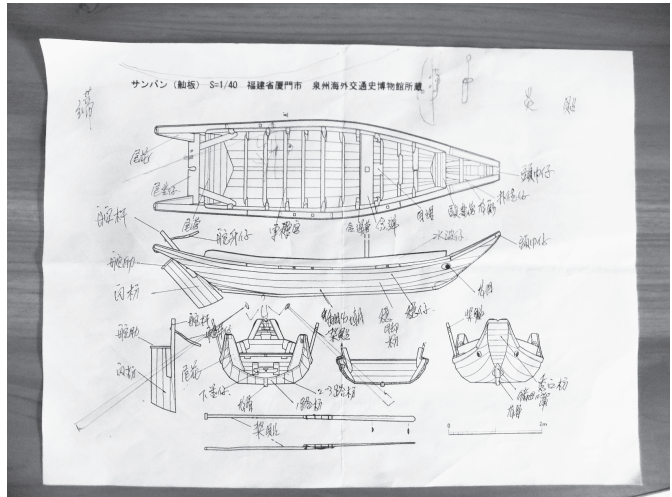


写真2 部分名称を記入した実測図（泉州海外交通史博物館蔵の舢舨）



写真3 造船工程を説明する福青沃造船所社長陳楊坤氏



写真4 福州市郊外の造船場